

# 旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 51

2022年8月発行

令和4年度 春季企画展

ぐるり春夏秋冬、雪月花

旧家で芸能伝統文化

乙女文楽の世界

こども昔暮らし体験2022 夏編

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (四十五)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

# 展示のご案内

令和4年度秋季企画展

## 旧植田家、大運動会。

本チラシは企画展示のお知らせです。  
実際に運動会は行ないません。

令和4年(2022)  
**9/16(金)～12/5(月)**

休館日：火曜日、9/26(月)・11/4(金)・24(木)  
〈開館時間〉9:00～17:00(入館は16:30まで)  
※9/28(水)は修繕作業のため土蔵1及びギャラリーには入れません。



旧植田家って何をしてた家？

企画展示の  
時代・林眞  
時代・伊東部  
五代一輝

**プログラム(展示内容)** ※展示内容は変更する場合があります。

- ◎ 玉入れ(寄付・寄進・返礼文書など)
- ◎ 徒競走(江戸～昭和まで直走る旧植田家)
- ◎ リレー(旧植田家代々)
- ◎ 障害物競走(事業・教育関連文書)
- ◎ 綱引き(交渉・駆け引き)
- ◎ 騎馬戦(選挙運動)
- ◎ 組体操(組合・組織など)



昭和16年(1941)に撮影された  
開館前～30年(1951)頃入館

**百花繚乱**

●10月10日(祝・月)10時、11時、14時  
展示解説の日(各回内容・30分ほど)  
※申し込み不要、無料(入館料が必要)



11/19(土)・20(日)は関西文化の日により入館無料

**秋のイベント**

- 10月17日(日) ぶらり新田4会所まちあるき～安中新田会所編～  
全10/1(土)～12/5(日)  
ギャラリー展示「再発見!【航空写真】にみる八尾」
- ★11/2(水)～23(祝) 旧家で記念撮影～七五三～
- 11月12日(土) うえまつ劇場～お庭で人形劇・紙芝居～
- 11月19日(土) 植松灯籠の日(夜間開催)



安中新田会所跡 旧植田家住宅

八尾市指定文化財 (指定管理者:NPO法人HCAU)

**安中新田会所跡 旧植田家住宅**

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25 電/TEL 072-992-5311  
(入館料)一般250円、高齢・大学生120円、中学生以下は無料

**【交通案内】**

- JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
- 近鉄大和線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行、JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分
- ※当施設には駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

<http://kyo-uedakeyutaku.jp/>



● 秋季企画展「旧植田家、大運動会」2022年9/16(金)～12/5(月)

旧植田家に関わった選挙運動、反対運動、教育・事業などの様々な運動(活動)について紹介します。

■ 冬季企画展「昔の暮らし～映・屋・灯～」12/10(土)～3/13(月)

昭和時代までの明かりを中心に、旧植田家のにこの懐かしい生活道具などを展示します。

※休館日はP15をご覧ください

# Contents

- 4 | 令和4年度 春季企画展  
ぐるり春夏秋冬、雪月花
- 6 | 通常展  
大和川付替えと植田家の收藏品
- 7 | 大阪教育大学コラボレーション演習  
植松ちょこっとネイチャーまつぷ！
- 8 | 旧家で芸能伝統文化  
乙女文楽の世界
- 10 | こども昔くらし体験 2022 夏編
- 11 | 日日植田家住宅 第8日：夏色々、マンジークイズ正解発表
- 12 | 四会所だより(31) ～平野屋新田会所(大東市)～
- 13 | 植ちょピ
- 14 | コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (四十五)」
- 15 | 旧植田家住宅のご案内



## 表紙写真



ギャラリーにて  
バックナンバー  
配架中(一部)

※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

### 乙女文楽の世界

2022年5月に開催した「旧家で芸能・伝統文化」。文楽人形を女性一人で操る「乙女文楽」の公演を行なった。イベントは事前申込制で、満員御礼。表紙は開演前の会場の様子。イベントの詳細は8～9頁を参照。



りぐるりぐるりぐるりぐるりぐ

春夏秋冬、

雪月花

令和4年(2022)

4/29(祝・金) ~ 7/11(月)



←目録はこちら

令和4年度 春季企画展

## ぐるり春夏秋冬、雪月花

普段わたしたちは四季(春夏秋冬)を通じて時の流れを知り、その中で自然を感じている。また年中行事や慣習など人々の営みからも季節を意識することがある。

江戸時代から続く旧植田家住宅には、およそ300点の掛軸が伝わり、時節に応じて床の間に飾られた。当時の保管場所であった土蔵の棚には掛軸がまとめて収蔵され、それぞれの箱には「春夏秋冬」や「仏事」などの表記が旧植田家において記されていた。掛軸に描かれた自然の風景から四季を読み取り、その時を大切にしていた往時の人々の想いを窺い知ることができる。

本企画展では掛軸を中心に「雪月花」(自然の美しい景物)が示す季節と時節を重んじた旧植田家のくらしが分かる掛軸およそ20点を前・後期に分けて紹介した。

### 【春・夏・秋・冬】

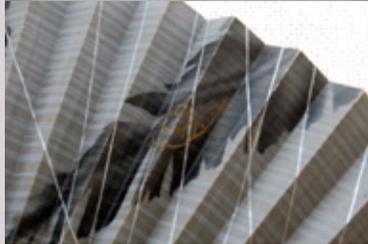
これまでの企画展や通常展などでも度々登場している明心和尚による書(「春夏秋冬」シリーズ)の掛軸をはじめ、今回は季節の移ろ



かつて旧植田家の床の間に飾られた四季折々の掛軸が展示室を囲む（前期）



「花」の中には自然の動植物がさらに描かれている



夏の扇子（上）。雨に打たれる葉の上をよく見るとカタツムリの姿（下）。



『大増補 四季の持扇』は江戸時代の俳句・俳諧辞書（いわゆる歳時記）。



様々な作者の作品を収めた「画帖」。

ぐるり展示替え（後期の掛軸）



いが感じられるよう、各季節ごとに「山水」と2点の掛軸（計3点ずつ）をセットで展示し、後期も同様に展示替えを行なった。「山水」の風景はどれも構図が似ているため一見違いが無い様に思われるが、よく見ると季節ごとに描かれる景物が異なり、その空気にも違いがあるように見えてくる。季節の違いを明確に分けているのは、やはり自然の物であり、作者が描こうとしているものと鑑賞者との間で行なわれる心の対話ともいえる。

また掛軸以外にも、夏に用いる扇子という道具そのものや、その意匠にも季節が表現されている。複数の作者が一冊の帳面に思いの作品を残す『画帖』の中にも四季を見つけることができた。さらに携帯に便利なの『四季の持扇』は俳句・俳諧などに用いるいわゆる歳時記で、江戸時代の人々がどのように季節を捉えていたのかを知るための資料でもある。

本企画展を通して、連続と続く日常生活の中で四季の彩りを改めて気づかせてくれる「ものの美」に触れたとともに、旧植田家が今に伝え残したことの有難さを現代人として誇りに思えた。

（学芸員 安藤亮）

【通常展】

# 大和川付替えと植田家の収蔵品

：ちよつと茶道具



2022年

7月15日(金)～9月12日(月)



旧大和川の変遷や付替えを紹介するパネル



木津宗詮の茶杓



楽茶碗などの優品からユニークな茶碗まで



猪の載った香合

## 「通常展」のすすめ



ちよつと茶道具(風炉先屏風・釜・茶掛の軸)を展示

【通常展】

大和川付替えと植田家の収蔵品

…ちよつと茶道具

旧植田家住宅の展示室では企画展が開催されていない期間、「通常展」として大和川付け替えの歴史と旧植田家の足跡が分かるオリジナルのパネル展示を行なっています。また同時に植田家の収蔵品の一部も紹介しており、今回は「ちよつと茶道具」のテーマで茶道具の優品からユニークなものまでを展示しています。

通常展での収蔵品の展示は、過去の企画展に登場したものと時期に応じたものなど「学芸員の気まぐれ」で毎回展示が変わります。何が展示されているのかは、来てのお楽しみといった要素もあります。

ちなみに今回の展示は、2016年開催の企画展から陶製耳付水指、貼交風炉先屏風、大西浄雪作の鉄製丸釜、茶掛の軸「壺中日月長」、楽家十代旦入作の黒楽茶碗、同六代左入作の赤楽茶碗、刷毛目三島手茶碗(萩焼)、俵鼠文茶碗、木津宗詮の茶杓、中村宗哲の棗、銀製香炉ほか、通常展とは思えない顔ぶれです。こうした貴重な文化遺産を当たり前のように見られるのも旧植田家住宅のすごい所です。ぜひ通常展にも足をお運びください。

(学芸員 安藤亮)

# 植松 ちょこっとネイチャーまっぷ!

まちあるきの一環で旧植田家住宅と近辺の魅力的な「植物」についてまっぷを作成しました! みなさんもちょこっと寄り道してみては?

八尾駅前南の花壇



木綿や色々な花を地域の方々で管理しています。



大和路線

長瀬川

浜川神社の大楠



樹齢千年といわれ、大阪府の天然記念物にもなっています。



善良寺の萩

秋が近づくと境内では萩が咲き、9月中旬に見ごろを迎えます。



旧植田家住宅の庭



一年を通じて庭と植物を楽しむことができます。



春は桜、夏はアジサイが川沿いを彩ります。

長瀬川沿道

※周辺情報や正確な道のりを知りたい方は、安中新田会所跡旧植田家住宅まで。

また、当施設で配架する「歩いてたのしむ植松ぶらっとまっぷ」もぜひご覧ください!



安中新田会所跡 旧植田家住宅

# 旧家で芸能伝統文化

## 乙女文楽の世界



令和4年(2022)

5月7日 土

実演・お話・映像で「乙女文楽の世界」にふれるひと時。

旧家で芸能伝統文化

### 乙女文楽の世界

コロナが一時の落ち着きを見せた5月、旧植田家住宅では数年ぶりの実施となる観客を入れての夜間公演を開催。来場者も一抹の不安とたつぷりの期待をもって、この日は満員御礼となった。

これまで「落語の会」や「講談とのこぎり音楽の会」を実施した「旧家で芸能伝統文化」の枠で、初の「乙女文楽」を披露してくださったのは、乙女文楽人形遣いの吉田光華氏と弟子の光寄氏。公演では乙女文楽の実演とともにお話や映像も交え、約50分間その世界にふれることができた。

#### 【思いのたけ】

伝統的に三人の男性が一体の人形を遣う文楽とは異なり、「乙女文楽」は女性一人で人形を操る。その歴史はまだ長くはないが、乙女文楽が誕生した文化的な背景や変遷、現代への継承など興味は尽きず、新たな



可能性も多く含んでいる。また、初めて見た人形の機構や動作には終始驚かされた。優雅な舞い、細かな仕種、感情表現などが全て詰まった「思いのたけ」の演目では、光華氏と人形がまさに一体となり、一人の女性（人形）の姿に観客は吸い込まれていった。

実演後は弟子の光寄氏による乙女文楽の解説と、師匠・光華氏の原点を紹介する映像を視聴。さらに光華氏自身が、これまでの活動について楽しくお話をされ、近況も含めた「思いのたけ」を語られた。



お待ちかね。吉田光華氏の「藤娘」。



吉田光寄氏による「白扇」



**【白扇〜藤娘〜終演】**

「オープニング」と題した吉田光華氏のプロモーション映像を拝見した後、続いて光華氏が「白扇」を披露。人形も女性ではなく男性の人形を遣われ、演舞には動的な要素と力強さが伝わった。因みに光華氏は男性で乙女文楽を継承されているといい、それもまた乙女文楽の魅力と可能性の一つでもある。

そしてお待ちかねの「藤娘」を光華氏が約7分にわたって熱演。華やかであり、たおやかな乙女文楽の世界にすつかりと魅了されていく様だった。終演後にはちよつとしたお楽しみもあり、最後の最後まで癒され、一時でも日常の疲れを全て忘れることができた。

(指定管理者 NPO 法人 HICALI)

# いごも昔くらし体験 2022 夏編

今年もやっぱり暑い夏。しかも今年は6月から真夏日・猛暑日が続いてさらに暑さを感じました。旧植田家住宅ができた江戸時代や植田さんが生活していた頃(昭和)の夏はどうだったのかな？

ということで、今年も子どもたちに昔の夏のくらしを体験してもらう「いごも昔くらし体験 夏編」を夏真っ盛りの7月23日(土)に行ないました。

去年は3人の子どもが参加し、わいわいごろごろ昔の夏を体験しましたが、今年は何と暑さのせいかコロナのせいかキャンセルもあり、参加者は小学3年生の男子一人だけでした。まさに貸し切り状態でのイベントでしたが、まずはクーラーの効いた講座室で昔の夏の話聞いた後、暑い主屋に移動。昔の道具探しや、庭では井戸水での打ち水体験も行ないました。

恒例(?)の冷たい板の間でゴロゴロや縁側で涼みながらのアイスも、スタッフと一緒に堪能しました。毎年苛酷になる夏の暑さがかえって浮き彫りになった昔のくらし体験でした。

(スタッフ)

# いごも昔くらし体験 2022

2022年7月23日(土)

やっぱりあついは〜

## 夏編



蚊帳(かや)の中



風通しの良い縁側



昔の夏の道具を探そう！



黒電話は夏の道具ではないです



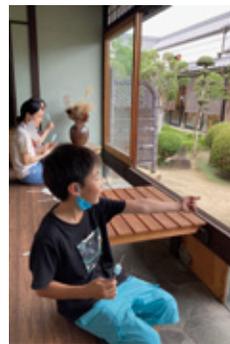
昔はつるべで水をくんでいた!?



夏といえば氷冷蔵庫。正解。



井戸水の水温を計ってから、打ち水に挑戦！



最後は再び縁側で休憩

雑記帳  
**旧植田家住宅**  
 - 日常から日用まで -

**第8日:夏色々、  
 マンジークイズ正解発表**

Seikai Happyo!



**【続・旧植田家住宅事業体験交流会】**

市内の文化財関連施設を対象に「旧植田家住宅の事業を体験してもらい交流を深める会」略して「旧植田家住宅事業体験交流会」の第3回目を7月9日(土)に行ないました。今回は8月・9月予定の「かまどでご飯炊き体験」に備えて、関係者だけで実際に羽釜でご飯を炊いてみました。参加者が全員初体験という中、ドキドキしながら炊けた初めてのご飯の味に、「美味しい」の言葉しか出ませんでした。



足水体験のできる井戸舎

**【夏色々、冷やし旧家とZoo宅】**  
 旧植田家住宅の夏は7月から9月までの納涼企画「冷やし旧家、はじめました。」から始まります。今年は既に6月から猛暑が続き、「冷やし旧家」が待遠しい夏となりました。その準備を猛暑中に行ない、クーラーのない主屋での簾戸の入替え作業や蚊帳かやの設置、屋外では井戸舎での足水体験用の桶おけや床几しょうぎ、簾すだれの準備など、とにかく暑い夏でした。また、施設の維持管理スタッフは連日朝夕の庭の水やりから、蚊と格闘しながらの草抜き、そしてやはり暑い主屋の掃除で、首からアイスリング(ネッククーラー)が外せない夏を送っています。

納涼企画に加え、夏のイベントとして昨年から実施している「旧植田家Zoo宅」でも、今年は新たに20種類ほどの動物を追加しその準備に追われました。イベントが始まってしまえば忘れてしまうので、来年の自分のためにあえてここに記録しておく、「慌ただしい夏」でした。  
 (冷やし旧家とZoo宅は次号に特集予定)

**【マンジークイズ正解発表】**

さて皆様、お待たせしました。前号に掲載の旧植田家だより50号記念「五十がば回れマンジークンプレゼントクイズ企画」の答えと当選者の発表を行ないます。  
 まずは答えですが、41号+36号で「77」が正解でした。いかがだったでしょうか。もらえるプレゼントに対して答えを探す手間が半端なく面倒だったと思います。  
 そしていよいよ応募件数と正解者の発表ですが、その前にコマーシャル……はありませぬので、「五十がば回れマンジークンプレゼントクイズ企画」応募総数は、なんと0名でした。よって当選者もなし。正解者は一人でもいると信じています。

# 四会所だより (31)

大東市指定文化財「深野新田周辺川堤絵図」  
絵図（平野屋新田会所旧蔵）

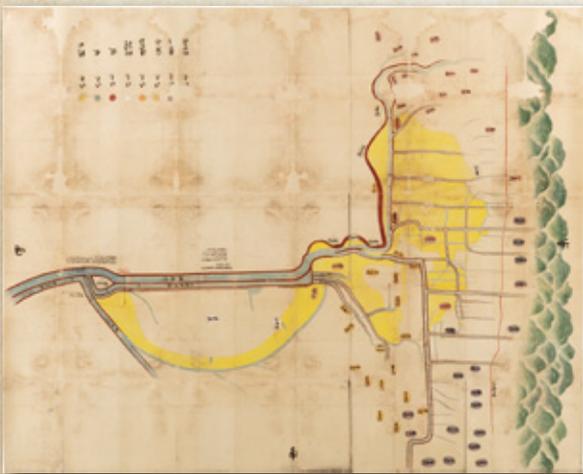
令和二年四月、「深野新田周辺川堤絵図」  
（平野屋新田会所旧蔵）が大東市指定文化財  
に指定されました。この絵図は、享保二年  
（一七一七）に作成され、平野屋新田会所  
の所有者が代々継承してきたもので、令和  
二年に大東市に寄贈されました。令和二年  
度に修復を行った後、令和三年秋に大東  
市立歴史民俗資料館で開催された、平野屋  
新田三〇〇年記念企画展「新田の歴史と  
遺産」で初めて公開されました。

絵図の大きさは一九〇・六×二三六・五cmも  
あり、生駒山麓から大坂の京橋付近まで  
の範囲が描かれています。絵図の中央から  
西向きに流れている徳庵川（徳庵井路）  
と六郷井路には、大和川の付け替え後に  
開発された深野新田や鴻池新田、さらに

は生駒山麓の村々などの悪水（排水）が  
流れ込んでいました。享保元年（一七一六）  
の洪水により六郷井路の南側の堤が破損  
すると、被害を受けた放出村・津村（い  
ずれも大阪市鶴見区）が悪水の流出元の  
村々を訴える争論が発生しました。享保三  
年（一七一八）、京都奉行所の裁許により、  
深野新田・山方三十二ヶ村（大東市・四條  
畷市・東大阪市・寝屋川市の山側の村々）・  
六郷十六ヶ村（鴻池新田を含む東大阪  
市北西部、大東市南西部の村々）が堤の修復  
を行い、共同で管理していくことが決め  
られ、争論は落着きました。絵図は、この  
争論の際に当事者の村々の立ち合いのもの  
で作成されました。

絵図の中では、深野新田や周辺の村々  
で整備された井路（水路）や堤、樋なども  
克明に描かれており、深野池の新田開発  
にともなう水利環境の変化を知るための  
重要な史料といえます。

（大東市産業・文化部生涯学習課 佐々木拓哉）



「深野新田周辺川堤絵図」(平野屋新田会所旧蔵)  
享保2年(1717)、190.6×236.5cm



深野新田周辺の様子

# マンジーくん

安富士 暁



河内木綿の苗がなくなつた。苗の配布も同時に行なつたが、配布開始から数日で用意した苗がなくなつた。

旧植田家住宅の小さな畑を活用して、地域の昔を学ぶ「畑活用計画」(旧体験農園)。2年連続新型コロナウイルスによる臨時休館で中止となり、3回目の今回は参加募集を行なつたところ、申し込みがなく、今年もスタッフが「河内木綿」の綿を育てている。なお綿の種と苗の配布も同時に行なつたが、配布開始から数日で用意した苗がなくなつた。

## ①「畑活用計画」(はたぶら)で綿を育てよう

2022年5月1日(日)～9月下旬

# 植ちよぴ。(ックス)

「植田家住宅のちよっとしたトピックス」

## ②「こどもの日」には兜をかぶろう

2022年5月5日(木)

5月1日(日)～29日(日)は「旧家で記念撮影」こどもの日」を開催。座敷の五月飾りの前で自由に記念撮影ができる。今年には段ボール甲冑と赤ちゃん用の布兜の貸出も復活し、家族連れが多く訪れた。また布兜にあわせてスタッフが手作りした陣羽織も好評だった。そして、五月五日(木)「こどもの日」には、新聞紙で兜が折れるイベントを急ぎよ行ない、入口の看板やSNS等で参加を呼びかけた。



スタッフ手製の陣羽織



新聞紙で兜を作ろう

## ③「植田家ボランティア養成講座」を開講

2022年6月～8月

これまでの「ボランティアガイド」を「旧植田家ボランティア(植ボラ)」に改称し、養成講座を行なった。活動の幅も広がり、植ボラさんたちの今後の活躍に期待したい。

## ④新キャラ誕生!?

大阪教育大学コラボレーション演習の一環でオリジナルキャラと缶バッジの制作をしました。ひとつは植田家の家紋(左卍紋)と狐のキャラクター(きゅうちゃん)をコラボさせたデザインと、もうひとつは宮型振り子時計をモチーフにしたキャラクター。ちなみに時計のキャラクター名は「ボンボンおじさん」にします。

(大阪教育大学コラボレーション演習生)



家紋の左卍紋と狐がコラボした缶バッジ(非売品)のデザイン



「ボンボンおじさん」



モデルになった時計(旧植田家蔵)

## 落穂拾い

— 今東光の董風 — (四十五)

文・伊東健

現在NHKで放送中の大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」では、木曾義仲を演じた青木崇高、菅田将暉が演じた源義経がとても魅力的で、「頼朝嫌い」がトレンドワードになるほどでした。

今東光も長編小説「武蔵坊辨慶」において、頼朝嫌いと判官贖罪について語っています。

僕は判官義経が兄頼朝の不興を買ったのは当然と思っている。それは義経の傲慢のせいか、あるいは軽卒のためか、辨慶や海尊の注告に耳を傾けなかったための自業自得だと断ぜざるを得ないのだ。史家には異論があるかも知れないが、三つの重大な過失を犯しているのだ。僕はこの作品でその三大過失を書いておきたい。これ亦、後世の史家の批判に待ちたいからだ。

その一は平氏から妻を迎えたこと。

その二は幕府の許可を得ずして任官し

たこと。

その三は源家嫡男の相続領である伊予国の太守となったこと。

以上の三点である。もし僕が義経の兄であつても恐らく許さないだろうと思つ。それが死に値したのは事もあろうに兄頼朝追討の院宣を請い奉つたことで、この辺になると義経の自暴自棄が見られ、自ら墓穴を掘つたと思えない。弟義経は兄頼朝に殺されるべき運命を自ら招いたので。

それでは僕は判官贖罪ではないのかと問われれば、だらしないほどの判官贖罪なのだ。義経が世に生きるに拙劣であればあるほど僕は彼を愛さずにはいられないのだ。義経等にとつての叔父十郎蔵人行家は、平家全盛の頃は紀州の新宮に隠棲して天下の形勢をつかがっていた。人呼んで新宮ノ

十郎というのはこの人のことである。頼朝が鎌倉に幕府を開くと行家も馳せ参じたが、頼朝はこの叔父を好遇しなかった。行家は木曾ノ義仲の許に身を寄せ、義経軍に破られた。そついつ叔父の末路を見ている義経は兄の頼朝とは未始終つまよくはずはないと覚悟すべきであつたのだ。駿河国の黄瀬川ではるばる奥州から馳せ参じた九郎義経

に対面して流した涙は、遂に空涙であつたのだ。その同じ空涙を頼朝は弟の悪禪師全生のために平気で流した人物なのだ。

僕は政治家として成功した源頼朝や徳川家康みたいなやつは決して好きになれない。

(後略)

※傍点は原文のまま。阿野全成のこと。

(昭和五十二(一九七七年)十一月二十二日学習研究社

発行「武蔵坊辨慶」(一)所収「辨慶随想」(より)

「蒼き蝦夷の血」や「東光太平記」と並び、「武蔵坊辨慶」は東光作品屈指の長編小説となりましたが、東光の逝去により、壇ノ浦の戦いの直前で絶筆となりました。吾妻鑑に沿いつつ、弁慶を通じて独自の歴史観を披露する嬉々とした作家の熱を、ぜひこの機会に味わってください。



義  
経



# 旧植田家住宅のご案内

【2022年9月～12月】

## これからの展示・イベント

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」  
 // 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

### 展示

2022年

◎7月15日(金)～9月12日(月)

通常展「大和川付替えと植田家の收藏品」

◎9月16日(金)～12月5日(月)

秋季企画展「旧植田家、大運動会」

◎12月10日(土)～3月13日(月)

冬季企画展「昔のくらし、映・屋・灯」

コロナ対策(マスク着用・3密回避・手指消毒など)にご協力よろしくお願ひします。

展示、イベント等のお知らせは  
 ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



### イベント

(詳しくはお問い合わせください)

9月 3日(土) 防災!かまどでご飯炊き体験  
 10日(土) 旧家で観月会(夜間開館)

10月 ★10/1(土)～12/5(月) ギャラリー展示「航空写真にみる八尾」  
 21日(金) ぶらり新田四会所まちあるき～安中新田会所編～

11月 ★11/2(水)～23(祝・水) 旧家で記念撮影～七五三～  
 12日(土) 植松劇場～お庭で人形劇や紙芝居～  
 ★11/19(土)・20(日) 関西文化の日(無料入館日)  
 19日(土) 植松灯笼の日(夜間開館)

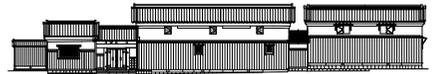
12月 17日(土) おもちつきの会  
 24日(土) こども昔くらし体験(冬編)

※予定は変更する場合があります。



## 休館日カレンダー

■ = 休館日



9 September

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10 October

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11 November

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12 December

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

### 【交通案内】



- ◇ JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
- ◇ 近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行  
 JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分
- ※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。

- 開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日：火曜日・祝日の翌日・年末年始  
 (詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)
- 入館料：一般250円(団体20人以上で120円)  
 高校・大学生120円(団体60円)  
 ※中学生以下、身体障害者手帳等の所持者および介助者は無料
- お問い合わせ・見学のご相談(ご予約など)  
 〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25  
 TEL/FAX: 072-992-5311  
 E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

### #編集後記(8・23)

前号の編集後記から1度4カ月が経ちました。予想通り新型コロナウイルスの感染者数は7月頃から爆発的に増え始め、大阪では再び「医療非常事態宣言」が出されました。▽この第7波の影響は入館者数やイベントの参加人数、申込みのキャンセルなどからも身近に感じ、決してささ波ではないことが分かります。▽ところで日本のお伽噺を開拓した明治の作家・巖谷小波の桃太郎の掛軸を毎年「こどもの日」に座敷に飾っています。只それだけです。

# 本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。  
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、  
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう  
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。  
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、  
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、  
地域経済を活性化させたいと思っています。

